

学 校 だ よ り  
は す

ぬ ま

ち ゅ う

か が み

# 蓮 沼 中 鏡

平成27年度 第8号

平成27年9月11日発行

大田区立蓮沼中学校

校長 大原章博

## 若鮎のように 2学期がスタートしました

今年度の夏休みは、例年よりも日数が多くありました。その夏休みも終わり、2学期が始まり1週間がたちました。休み中は、大きな事故や事件に関する報告もなく、生徒は各家庭でそれぞれの休みを過ごしたように思います。

この8月は、20日を境に気温が下がり、猛暑日から一転、秋の気配を感じる月末となり、生活のリズムを整えるのに苦労したのではないのでしょうか。しかし、残暑が厳しくなかったおかげで、スムーズに2学期をスタートすることができたのではないのでしょうか。この2学期は一年中でさわやかな気候に恵まれ、「灯火親しむ秋」とか「スポーツの秋」と言われるように、学習や運動に打ち込む絶好の季節で、自分を大きく成長させるときです。生徒は、しっかりとした目標をもって日々の授業に集中し、行事や部活動などに積極的に取り組んで、自分を厳しく鍛え磨いてもらいたいものです。

そのためにも、2学期は行事がたくさんあります。大田区連合陸上競技大会(9/11)、特別支援学級連合運動会(10/8)、開校60周年記念式典(10/17)、蓮中祭【合唱コンクール・舞台発表】(10/31)、11月には連合学芸会【音楽、演劇、英語の部】があります。運動部では新人戦も始まります。3年生にとっては、自分の進路を決める大切な学期ですから、辛い現実から顔をそむけたり逃げたりしないで、真正面から立ち向かって進路を切り拓いてほしいと思います。

夏休みに釣り番組でも見て暇をつぶそうかと思ってテレビをつけたら、いつもなら「□□海の○○釣り」という内容の番組が、長良川の鮎の養殖についてのドキュメントを放映していました。卵の採取から孵化させ、稚魚になったら放流する。やがて、成魚となったばかりの鮎が長良川をさかのぼってくるまでの漁業組合の取り組みの内容でした。川を上っていく若鮎の姿は、スマートで直線的でその一生懸命な泳ぎに感動すら覚えました。

ところで、「若鮎のように」という言葉があります。若鮎は上でも述べたようにピチピチと躍動的で純粹無垢というイメージです。人間ならばティーンエイジャー、それもローティーンエイジャーである中学生の姿と重なるのです。溪流の魚である鮎は群れをなして流れをさかのぼりますが、その時先頭に立つ魚を先頭魚といい、先頭魚は終始入れかわり立ちかわりしているそうです。学校もいつも同じ人が先頭にいるというのではなく、多くの人が入れかわり立ちかわり先頭に立って、互いに競い合い、高め合いたいものです。

秋は「実りの秋」です。何事にも全力で取り組んで、学習、行事、部活動など頭や気持ちの切り替えを素早くして、若鮎のように躍動し、自分の得意な分野で先頭に立つ努力をし、お互いの心の輪をひろげ、実りの多い充実した2学期にしましょう。

保護者の皆様、夏休みの間、ご家庭でのお子様の指導、ありがとうございました。祭礼パトロールにもご協力をいただき、感謝しております。2学期も、教職員と保護者、地域がスクラムを組んで、生徒のために力を尽くしたいと思います。

## 大田区立中学校連合陸上大会に向けて



今年度も、駒沢陸上競技場で9月11日(金)、大田区立中学校連合陸上競技選手権大会(通称・区陸)を開催します。

代表選手が本番に向けての練習に本格的に取り組もうとしたときに、秋の長雨とぶつかり思うような練習ができない日が続き、苦労しています。

しかし、本校の代表として精一杯の力を出し切り自己ベストの記録を目指してがんばってほしいものです。選手への声援をよろしくお願いします。

\*注\* 写真は昨年度の大会の様子です



## 大田区中学生海外派遣

今年度も、大田区中学生海外派遣が無事、行われました。本校からは、2年生の山崎 潤くんと齊藤祐香さんの2名が派遣生徒として、それぞれドイツとアメリカに行きました。今年度は、熊野教諭も引率教諭としてドイツに行ってきました。

派遣生徒は、研究テーマを持ち、ホームステイやその国ならではの数々の経験をして、無事帰国しました。このときの成果は、区の報告会や蓮中祭で発表することになっています。1年生も、今から海外派遣生徒の応募について考えておくとよいかもしれません。



## 第15回全国中学校総合文化祭東京大会の運営にかかわって



《オープニング》

8月19日、20日の2日間にわたって調布市グリーンホール、文化会館たづくりを会場として、全国中学校総合文化祭が行われました。

私は、この大会の実行委員長として運営に関わり、リハーサルを含めて4日間会場に行きました。東京を始め、北海道から沖縄まで18都道府県の中学生が参加しました。演劇や郷土芸能、音楽などの25の舞台発表と書道や絵画など約800点の作品が展示されました。

参加した中学生誰もが、「いいものを見せたい」「自分たちの文化活動を多くの人に知ってもらいたい」という気持ちにあふれた大会になりました。大会スローガンの“輝け！我が文化 東京から未来へ”を見事に、中学生の文化部パワーを発揮し表現してくれました。

中学生のひたむきに取り組み、大会を終えた後の目の輝きは何度見ても感動を与えてくれるものだと改めて実感することのできた大会になりました。閉会式では、中学生100人以上がステージに上がり、「ふるさと」の大合唱で、全国の中学生が一つになった瞬間を味わうことができました。

(大田区からは大森十中チアリーディング部が出演しました。)